

平成 26 年度新潟県原子力防災訓練にあたって

平成 26 年 11 月 7 日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所
所長 横村 忠幸

福島第一原子力発電所の事故から 3 年以上が経過しておりますが、今もなお、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、大変なご心配とご迷惑をおかけし続けておりますことを、あらためて心よりお詫び申し上げます。

来たる 11 月 11 日に新潟県の原子力防災訓練が開催される予定であり、私どもも原子力事業者として本訓練に参加させていただきます。新潟県との合同の原子力防災訓練につきましては、昨年 3 月に引き続き行われるもので、福島第一原子力発電所の事故以降では 2 回目の開催となります。

当社におきましては、発電所内では、対策本部内における情報収集や緊急時対応、関係各所への情報発信訓練、汚染傷病者の搬送訓練などを実施いたします。発電所外においては、オフサイトセンターへ担当役員を派遣し事業者としての役割を遂行する訓練などを実施する予定です。

また、個別訓練として格納容器ベントの操作訓練、後方支援拠点の設置ならびに対応の実訓練などを実施する予定です。

原子力防災訓練につきましては、当社内では月に 1 度総合訓練を実施するなど、繰り返し訓練を重ねてきており、緊急時対策要員一人ひとりが自らの役割を認識し、いざという時に備えてスキルアップを図ってきております。このたびの訓練では、日頃のこうした取り組みに加え、とりわけ関係各所との情報共有化の観点で実働的な要素を組み込むなど工夫を行っておりますので、この点を重点的に検証する機会にしたいと考えております。

中でも、地元及び周辺自治体の皆さまとの連携を意識した訓練として、今回は実際に当社から社員を自治体へ派遣し、プラントの状況をタイムリーかつ正確にお伝えするという訓練にも取り組みます。

今回の訓練では国や県、地元及び周辺自治体の皆さまから様々なご意見やご要望を頂けるものと考えており、これらの声を真摯に受け止め改善を積み重ねてまいります。そして、福島事故を決して忘れることなく、昨日よりも今日、今日よりも明日の安全レベルを高め、地域の皆さまから信頼され安心していただける発電所を目指してまいります。

以 上